

平成29年度教育事業

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村(11年目)

1 事業概要

参加した大学生は、最初の2日間でリーダーシップや子どもへの接し方、集団作りの技法、伝承文化について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。4日間、小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身につけると共に、活動を通して伝承文化を小学生に伝えた。

2 事業の目的(ねらい)

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験の融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育むとともに、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

3 企画・運営のポイント

本事業は当所でのこれまでの体験活動が自然体験活動中心であったことや、日本では自然と生活文化が一体化していると思われること、日本の伝承文化を理解し、それを継承していこうとする意識が希薄化していること等から、自然と文化の融合体験及び地域に根ざして活動するリーダーを養成することを目的として、平成19年度より国立大学法人愛媛大学との共催事業として始まり、平成25年度からは法人ボランティア養成事業として実施している。回数を重ねる中で伝承文化のテーマを変更したり、日程を変更したり、事業の質を高めるべく改革を行ってきた。

昨年度から、大学生参加者を3つの区分に分け、初年度の参加となる通常クラス、2回目の参加となる上級クラス、3回目以上の参加となるアドバンスクラスを設けている。これは参加回数に応じた学びが得られるように工夫を加えたもので、通常クラスは他の参加者との協働する力を、上級クラスは課題発見能力を、アドバンスクラスはマネジメント能力を養成できるようにそれぞれの役割を明確にして事業を実施した。

4 期待される効果

本事業は、前半部分で法人ボランティア養成講座において、児童理解やリーダーについて学び、後半部分で実際に4年生から6年生の児童を迎えて、企画・運営をする形であることから、学んだことを実践的に身につける事ができると考えられる。また、内子町のフィールドワーク等を通して学んだ地域の伝承文化を活動の中で小学生に伝える事ができると考えられる。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学

6 後 援 [後援] 愛媛県教育委員会 西予市教育委員会 大洲市教育委員会
NHK松山放送局 あいテレビ 愛媛新聞社
[協力] 西予市野村町惣川「土居家」



7 期 日 平成29年8月21日(月)～26日(土)
 ※大学生を対象とした参加者講習会を7月27日(木)に実施
 ※子どもむかし生活体験村は8月23日(水)～26日(土)に実施

8 場 所 国立大洲青少年交流の家 21日～23日、26日～27日
 西予市野村町惣川「土居家」 23日～26日

9 参加人数 大学生9名 (募集人数15名)
 [子どもむかし生活体験村 小学校4～6年生20名(募集人数20名)]

10 講 師 岩本 康孝 氏 (大洲市立喜多小学校主幹教諭)
 小野 翠 氏 (内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員)
 大本 敬久 氏 (愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員)
 西予市野村町惣川地区の方々
 山崎 哲司 氏 (愛媛大学教授)
 日野 克博 氏 (愛媛大学准教授)
 高橋 平徳 氏 (愛媛大学講師)
 国立大洲青少年交流の家 職員

11 日 程

7/27 (木)	16:30										18:30		
	参加者講習会										※愛媛大学で実施		
8/21 (月)	9:30	10:30	12:00	13:00	15:30	16:00	17:30	19:30	20:00	21:00	22:00		
	受付	開講式	アイス ブレイク	昼食	竹の遊び道具・うちわ づくり実習と安全管理	現代の 教育①	現代の教育 ②役割分担	夕食 入浴	リーダー について	子どもとの かかわり方	情報 交換会	就寝	
8/22 (火)	9:00	11:00	12:30	13:30	17:30	19:30	22:00						
	伊予の伝統建 築と伝統工芸	(バス移動) 土居家へ	昼食	現地確認 安全対策	プログラム 計画	役割分担 運営準備	夕食 入浴	プログラム計画・運営準備			就寝		
8/23 (水)	8:30	10:30	12:00	13:00	14:30	17:30	19:30	21:00	22:00				
	開村式 準備	開村式	仲間 づくり ゲーム	昼食	愛媛の民俗文化 について	竹食器・竹箸づくり 竹の遊び道具づくり	夕食 入浴	班活動 目標づくり	打合せ 企画会	就寝			
8/24 (木)	9:00	12:00	13:00	18:00			20:00	21:00	22:00				
	うちわづくり		昼食	リーダーズプログラム①			夕食 入浴	リーダーズ プログラム②	打合せ 企画会	就寝			
8/25 (金)	9:00	12:00	13:00	15:00	15:15	17:00	17:30	19:30	20:30	22:00			
	うどんづくり		昼食	土居家清掃、 片付け	土居家 退家式	(バス移動) 交流の家へ	入所	夕食 入浴	思い出発表 準備①	ふりかえり	就寝		
8/26 (土)	9:00	10:00	11:00	12:00									
	思い出発表 準備②	思い出発表 閉村式	ふりかえり 閉講式	大学生解散									

※太字は法人ボランティア養成講座部分

12 活動内容

〈開講前【7月27日(木)】愛媛大学

「参加者講習会」(16:30~18:30)

講師：山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)

国立大洲青少年交流の家 職員

本事業に応募した大学生を対象とした参加者講習会を愛媛大学にて開催した。講習会では、初めに当所の担当者が、本事業の概要やねらいについて紹介した。続いて昨年度の参加者であった教育学部の大学院生から、昨年度の活動報告のプレゼンが行われた。また、当所の職員が法人ボランティア制度についての説明を行い、最後に愛媛大学の山崎先生から参加者に対し、激励と望ましい参加態度についての講話があった。

〈第1日【8月21日(月)】交流の家

「アイスブレイク」(10:30~12:00)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大学生参加者の緊張をほぐし、また3日目から始まる「子どもむかし生活体験村」で最初に行われる「なかまづくりゲーム」での指導方法を学んでもらうため、グループワークゲームを実施した。最後に振り返りとしてゲームの目的と注意点が紹介された。



「竹の遊び道具、うちわづくり実習と安全管理」(13:00~15:30)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大学生参加者は、小学生参加者に竹細工を指導する立場となるため、実際にうちわと竹食器を作成した。うちわづくりを行い、KYT(危険予知トレーニング)を受けた後、竹食器作りを行った。小刀や鉋などの刃物を使用するため、より細かに作業手順と怪我をさせないための注意点が職員から伝えられた。参加者はリスクマネジメントの考え方を学んだ。



「現代の教育①・②・③」(15:30~20:00) ※夕食・入浴をはさむ

講師：高橋 平徳 氏(愛媛大学講師)

日野 克博 氏(愛媛大学准教授)

山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)

高橋先生からは、体験学習の重要性や子どもたちの体験学習を支えるために、「見守る」「支援する」視点が大切であることを学生は学んだ。そして、体験を学びに変えるためには、省察(リフレクション)がポイントであることについて理解を深めた。

日野先生からは、この事業は地域に根ざしたリーダーの育成がねらいであることを伝えられ、続いてリーダーとリーダーシップの定義やリーダーの機能といった概念の説明から、上手なほめ方やしかり方といった具体的な説明があった。

山崎先生からは、前半の学習を活かして、後半の「リーダー」として役割を担う、実践的学習の場であることを話され、仲間や手助けをしてくれる人達と協同して深い学びをしようと

また、役割分担について、3年目のアドバンスクラスのリーダーが司会となり、それぞれの役割を決め、活動について、見通しをもった。



「子どもとのかかわり方」(20:00~21:00)

講師：岩本 康孝 氏(大洲市立喜多小学校主幹教諭)

小学生との生活体験を控えて、小学生への接し方とグループのルール作りや目標作りの手法について、岩本氏から講義いただいた。

講義の中で「リフレーミングカード」が紹介された。これはカードの表に書かれた特徴も、見方を変えれば裏に書かれた特徴と対であることが簡単に理解できるカードである。子どもの短所に注目して注意を与えるのではなく、長所を見つけてほめることが基本であると伝えられた。



【第2日【8月22日（火）】】 交流の家・内子町『町並み保存地区』・西予市野村町惣川『土居家』 「伊予の伝統建築と伝統工芸」（9：00～10：30）

講師：小野 翠 氏（内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員）

子どもむかし生活体験村で過ごす「土居家」は西予市の重要文化財である。また、事業4日目の夜にナイトハイクで使用する和蠟燭は、内子町で生産されているものである。内子町の和蠟燭で財をなした上芳我家は国の重要文化財に指定されており、事業に向けて伝統建築と和蠟燭について参加者に理解を深めて貰うため、内子町でのフィールドワークを行った。「上芳我家」では、小野氏の案内で伝統的家屋の特徴について見て回り、資料館で内子と和蠟燭の関わりについて詳しく説明を受けた。



「現地確認・安全対策・プログラム計画・準備」（13：30～17：30）

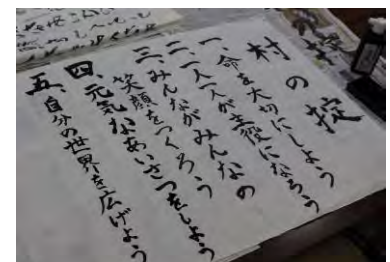
バスで惣川に移動し、「リーダーズプログラム①」の検討に入った。現地踏査では、約2キロの道のりを大学生リーダーが小学生を徒歩で引率する形になるため、実際に歩いてコースを確認するとともに、神社境内や親水公園での危険個所の確認を行った。途中、入浴場所である「野村少年自然の家」へも立ち寄り、村内の位置関係を全員で確認した。



土居家に戻った後、現地踏査の結果を踏まえてプログラムの内容について、大学生リーダーが意見を出し合った。上級クラス、アドバンスクラスのリーダーがアドバイスをする形で話し合いが進んだ。

「プログラム計画・運営準備」（19：30～22：00）

翌日から始まる「子どもむかし生活体験村」の「村の掟づくり」が行われた。この掟は起床後のつどいや、食事の度に全員で唱和するものである。生活班ごとに分かれたリーダーで話し合った意見を全体で集約し、最終的に5つの掟を定めた。また、役割や準備物の確認を行い、振り返りを行った。



【第3日【8月23日（水）】】 西予市野村町惣川『土居家』

「『子どもむかし生活体験村』開村準備・開村式・仲間づくりゲーム」（8：30～12：00）

役割分担と小学生を出迎えた後の流れについて確認を行った。最初の活動である「なかまづくりゲーム」は、緊張した初対面の小学生を安心させる重要な時間であるので、担当リーダーを中心に入念なりハーサルが行われた。バスで到着した少し緊張した面持ちの小学生を、大学生は努めて笑顔で出迎えた。子どもむかし生活体験村への参加にあたって、「兄弟や友人との参加不可」というルールを設



けている。これは新しい人間関係を様々な活動や共同生活をとおして築いてもらうことで、コミュニケーション能力の向上を狙っているからである。実施した「なかまづくりゲーム」は、初日の活動で大学生リーダーが経験したアイスブレイクを担当リーダーが自分たちなりにアレンジしたもので、前半は多少ぎこちなさが見られたが、活動が進むにつれて全員に自然な笑顔が広がった。

「愛媛の民俗文化について」(13:00~14:30)

講師：大本 敬久 氏(愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員)

西予市の重要文化財である「土居家」は、伊予と土佐を結ぶ街道の宿場町として栄えた惣川の庄屋屋敷として文政10年(1827年)に建築されたと伝えられている。傷みの激しかったこの屋敷は平成10年に現在の形に修復され、西予市の重要文化財に指定された。大本氏から土居家の建築的特徴について説明をうけた。屋敷内を巡りながらその特徴を理解することで、参加者はなお一層、ここで生活体験することの重みを再認識したようであった。



「竹食器・竹箸づくり、竹の遊び道具づくり」(14:30~17:30)

講師：西予市野村町惣川地区の方々

大学生リーダーが小学生に伝える伝承文化の一つに竹細工がある。地元惣川地区の方々に指導いただき、土居家前の広場で竹食器を作成した。この竹の器と箸は、後の活動で流しそうめんやうどんを食べるためのものである。大学生リーダーは2日目の安全管理講習で自分たちの竹食器を作成して、作業の手順と怪我をしない道具の使い方を確認しており、担当班の小学生をそれぞれが指導した。また、この時間に惣川地区の方々に各班一つずつ作っていただいた竹馬は、空き時間に大学生リーダーと小学生参加者の交流を促進する大切なものとなった。



「班活動・目標づくり」(19:30~21:00)

班ごとに目標の作成に取り掛かった。村の掟は小学生参加者と出会う前に大学生リーダーが決めているが、班ごとの目標は班のメンバーが揃った後に決めている。小学生から言葉を引き出して目標を書き出した。



〈第4日【8月24日(木)】〉西予市野村町惣川『土居家』、三島神社周辺

「うちわづくり」(9:00~12:00)

大学生リーダーがうちわの作り方について指導した。ここで作るうちわは熱中症対策としても大切だが、共同生活が終わった後に持ち帰ることができる数少ないお土産の一つである。班の仲間で協力してうちわづくりを進めていった。作業しながらも班で話も弾んできており、どんどんと打ち解けていく様子がみられた。



「リーダーズプログラム①」(13:00~18:00)

2日目の現地踏査で確認した危険個所に留意しつつ、三島神社まで移動した。現地に到着し、境内で「むかしあそび」が始まった。昨日、竹細工の余った竹で作った「竹ぼっくり」で班対抗の「竹ぼっくりリレー」を行った。接戦が繰り広げられ、大いに盛り上がった。

むかしあそびの後は、スイカ割りを挟んで親水公園での川遊びとな



った。大学生リーダーからライフジャケットの着用方法について説明があった後、川遊びについてのルール説明が行われた。川遊びができる場所として整備された場所ではあるが、小学生にとっては水深が深い場所もあったため、大学生リーダーは遊び役と監視役に分かれ、また水温が低いためにそれぞれの役割を交代で行った。

「リーダーズプログラム②」(20:00~21:00)

満天の星空を理科専攻のリーダーが説明し、ナイトハイクに出発した。提灯に入っているのは、2日目のフィールドワークで訪れた内子の和蝋燭である。心もとない明かりを頼りに、各班は夜の惣川を探索した。土居家に戻ると、ライトアップされた四国最大級の茅葺屋根が参加者を出迎えた。



【第5日【8月25日(金)】】西予市野村町惣川『土居家』、野村少年自然の家・交流の家

「うどん作り」(9:00~12:00)

講師：西予市野村町惣川地区の方々

野村少年自然の家の食堂を利用してうどんづくりを行った。惣川地区の方々に指導いただいて、うどんづくりが進んだ。うどんづくりに使われた小麦粉は、講師を務めた方の田畑で栽培され、このうどんづくりのために製粉されたものであった。コシの強いうどんを作るため、小学生と大学生が協力してうどん作りに励んでいた。



「土居家清掃・片付け・退家式」(13:00~15:15)

大学生が3泊4日、小学生が2泊3日を過ごした土居家を、荷物の移動をしながら清掃を行った。予定よりも早めに片付けが進んだため、参加者は土居家の庭でむかしあそびを楽しんだ。お世話になった土居家の人々にお礼の挨拶をし、集合写真を撮影した後に土居家を後にした。



「思い出発表準備①」(19:30~20:30)

交流の家に戻り、思い出発表の準備に取り掛かった。平成26年度より日程を1日延長し、この思い出発表が行われている。それまでは惣川で小学生を大学生リーダーが見送る形であったが、どのような生活を送ったのか小学生の保護者にも知ってもらい、また参加者にもこれまでの活動をふりかえることで体験活動の効果を高めてほしいとの願いもあり、以来この形をとっている。各班で発表する活動を選び、その活動について発表する小学生の指導を大学生リーダーが行った。



「ふりかえり」(21:00~22:00)

講師：山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)、国立大洲青少年交流の家 職員

期間中、大学生リーダーは毎日予定されたプログラムを終えると愛媛大学職員、交流の家職員とのふりかえりを行っていた。この日が最後のふりかえりとなる。山崎先生から気持ちの浮き沈みがどのようにあったのか問いかけがあり、それぞれが自分自身の5日間の活動を振り返って1枚のワークシートにまとめた。

〈第6日【8月26日（土）】交流の家

「思い出発表準備②」（9：00～10：00）

思い出発表前最後のリハーサルを行った。小学生にとっては4日ぶりに会う保護者への発表ということもあり、前日の練習よりは緊張の色が濃いように見えた。大学生リーダーが最後の声掛けをし、託すような眼差しを送って小学生の元から離れた。

「思い出発表会・閉村式・ふりかえり・閉講式」（10：00～12：00）

担当の大学生リーダーが司会を務め、思い出発表が始まった。前方から小学生参加者が班ごとに席から立って思い出を発表し、部屋の中央に座った保護者がそれを聞き、後方で大学生リーダーが見守るといった形で実施した。司会の大学生リーダーが閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生リーダーへのサプライズが行われた。前日夜に大学生がふりかえりを行っている間に練習した歌と感謝の手紙が大学生に送られ、予期せぬ仕掛けに大学生リーダーだけでなく保護者の涙も誘い、4日間の共同生活が締めくくられた。



13 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果

【小学生】

*満足 77.8：% *やや満足：22.2% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- たくさんの人と楽しむことができ、昔の生活がわかって4日間毎日が楽しかったです。（10歳・女子）
- 昔はこんなに大変なのだと思いました。大学生リーダーが面白くて、優しくて、頼りがいがありました（12歳・女子）
- 兄にすすめられて参加しました。友達ってすぐにできるのだと思いました。（10歳・男子）

【小学生保護者】 ※実施3ヶ月後のアンケート調査への回答より

- いろいろなものに興味関心をもつようになり、「やればできる」という思いが強くなったように感じます。
- お別れをした後、お友達や大学生の方々とは離れたのが寂しくて泣いていました。そのくらい楽しかったようです。
- 今回のたくさんの体験が、人前で発表するなど、大きな声が出るようになり、少し自信がついたように感じました。

【大学生】

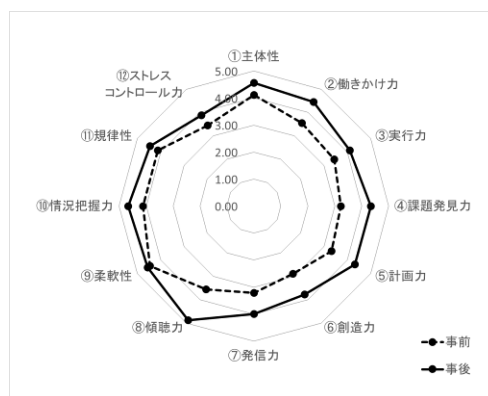
*満足：100.0% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 長く短かった5泊6日だったが、実際に子どもと親密に関わり、まとめ役をすることで、リーダーとしての自覚も感じる事ができ、よい経験ができたと思う。
- 今までに子どもたちと長期的に関わったことがなく、初めてのことばかりで最初は戸惑ったが、周りに支えてくれる人がいるという心のゆとりのおかげで自分らしく活動できた。
- 学校の卒業式でも泣いたことがなかったのに、今回のリーダー村では、お別れの前の晩から涙が止まらなかった。子どもたちが成長していく様子をもっともっと見ていきたいかった。

1.4 成果と課題

【成果1】大学生が達成感を得て、自信を持てたこと

事業前と事業後に「社会人基礎力」の測定を行った。どの学生も押し並べて数値が向上していた。社会人基礎力は「Ⅰ前に踏み出す力」「Ⅱ考え抜く力」「Ⅲチームで働く力」の3つで構成されているが、どれも平均で3割前後の伸びを示した。特に「Ⅱ考え抜く力」(④⑤⑥)の伸びが目立っている。知恵を出し合い、練り合っってリーダーズプログラムを計画し、子どもたちにとっても満足のいく企画ができ、達成したことによる自信がついているのではないかと考える。



【成果2】参加した小学生にたくましが身についたこと

本事業での体験が、小学生にどのような変化をもたらせたのかを調査するために、子どもむかし生活体験村に参加した小学生に対して「IKR (生きる力) 評価用紙 (簡易版)」による調査を事業の前後に実施している。2次案内時、事業の3ヶ月後に小学生の保護者に対しても調査を実施した。下記のグラフのとおり、全ての項目において事業後にその数値が向上しており、小学生自身も保護者も変化を実感している。特に、心理的社会的能力において大きな伸びがあった。

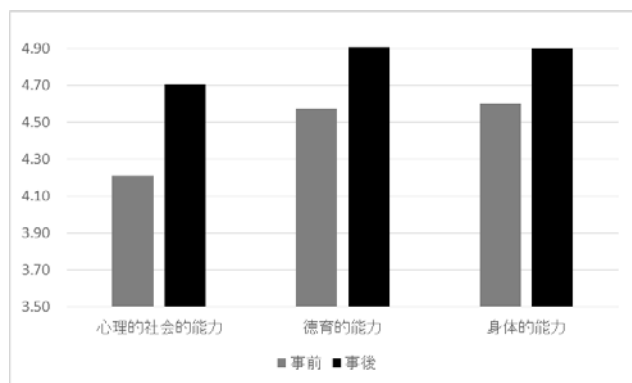


図2 IKR評価用紙 (小学生) 評価結果

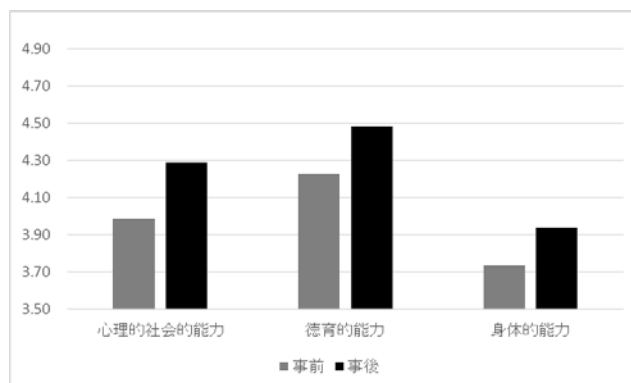


図3 IKR評価用紙 (保護者) 評価結果

【成果3】大学生の「ふりかえり」「わかちあい」が深まったこと

事業全日程に参加した愛媛大学の高橋先生は経験学習が専門である、毎日グループでふりかえりに使うワークシート「リフレクション・シート」を作成していただき、ふりかえりの際に利用した。自分の課題や成果を見つめ直し、仲間と話し合っって、明日への目当てを明確にさせるものであり、大学生の成長を促すものであった。

【課題1】ゆとりある日程や休息の取り方

大学生は子どもたちと密接な関係を築き、貴重な生活をしていくが、気を抜く場面がなく顔に疲れが見えるところがあった。子どもの就寝後も振り返りや計画で十分な睡眠時間を確保できていない様子でもあった。交代しながらでも休息できる時間や場を確保し、大学生が心身共にリフレッシュしてさらに生き生き子どもと活動できるように生活時間も考えていきたい。

【課題2】長期自然体験への移行

本年度で本事業は11年目となった。形や場所を少しずつ変えながら続けており、大学からの需要、子どもの高い応募率があり、本所としても看板事業の「チャレンジカヌーツーリング」に次ぐ、大きな事業である。リーダー村としての形を残しつつ、今後も大学と連携をとって進めていき、日程を延ばすことと自然体験をさらに充実させていくことを考えていくつもりである。活動場所や内容について情報収集を行っていき、自然と歴史が融合した事業にしたい。(担当: 企画指導専門職 清水大輔)